

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課
教育指導室

「令和4年度全国学力・学習状況調査」が4月19日に行われ、市内小中学校16校で実施しました。その結果が7月28日に公表されましたので、その概要を報告します。

なお、当日新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖中の中学校が1校あり後日実施となりましたので、結果からは除外されています。

今後は、安曇野市教育委員会として教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と協働して組織した学力向上推進委員会にて結果の詳しい分析・考察を行ってまいります。

調査の概要

- 調査の名称 令和4年度全国学力・学習状況調査
- 実施日 令和4年4月19日（木）
- 実施学年 小学校6年生（10校、782人）、中学校3年生（6校、580人）
※中学校1校は後日実施のため集計結果から除外
- 調査の内容
 - ①教科に関する調査
 - ・小学校…国語、算数、理科（3教科）
 - ・中学校…国語、数学、理科（3教科）
 - ②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査

各教科の学力状況

●傾向と課題

各調査全体の平均正答率を見ると、中学校では全教科が全国や県を「大きく上回る」「上回る」という結果で、小学校では1教科は全国を「少し上回り」、県を「上回る」という結果でしたが、1教科は全国を「下回る」、県を「少し下回る」という結果でした。

具体的には、小学校では、国語は全国や県と「ほぼ同じ」で、算数は全国を「下回り」県を「少し下回り」ました。また、理科は全国を「少し上回り」県は「上回り」ました。中学校では、国語の全国との比較が「上回る」以外は、全ての教科で全国や県を「大きく上回る」という結果でした。

正答数の分布を詳しく見ると、小学校の国語は、全国や県とほぼ同じでしたが、算数は上位層が少ない状態となっています。一方で、理科は上位層が多い状態です。中学校は、全国や県に比べて国語は上位層が多く、数学や理科は下位層が少ない状態となっています。

内容や領域面から見ると、小学校では、国語の「我が国の言語文化に関する事項」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」や「変化と関係」に課題があり、改善していく必要があることが分かります。中学校は全体的に良好な状況ですが、国語の「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」、数学の「図形」などは更に力を伸ばすことが必要だと考えられます。

【全国や長野県との平均正答率の比較】

【小学校 国語】

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	○	○
言葉の特徴や使い方に関する事項	○	▽
我が国の言語文化に関する事項	▽▽▽	▽
話すこと・聞くこと	☆	☆
書くこと	○	○
読むこと	☆	○

【小学校 算数】

内 容	全国との比較	県との比較
算数全体	▽▽	▽
数と計算	▽	○
図形	○	☆
変化と関係	▽▽▽	▽▽
データの活用	○	○

【小学校 理科】

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆	☆☆
「エネルギー」を柱とする領域	○	○
「粒子」を柱とする領域	☆☆☆	☆☆☆
「生命」を柱とする領域	○	○
「地球」を柱とする領域	○	○

【中学校 国語】

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	☆☆	☆☆☆
言葉の特徴や使い方に関する事項	☆☆	☆☆
情報の扱い方に関する事項	☆	☆
我が国の言語文化に関する事項	☆☆	☆☆
話すこと・聞くこと	☆☆	☆☆☆
書くこと	☆	☆
読むこと	☆☆☆	☆☆☆

【中学校 数学】

内 容	全国との比較	県との比較
数学全体	☆☆☆	☆☆☆
数と式	☆☆☆	☆☆☆
図形	○	☆☆
関数	☆☆☆	☆☆☆
データの活用	☆	☆☆

【中学校 理科】

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆☆☆	☆☆☆
「エネルギー」を柱とする領域	☆☆☆	☆☆
「粒子」を柱とする領域	☆☆	☆☆
「生命」を柱とする領域	☆☆☆	☆☆☆
「地球」を柱とする領域	☆☆	☆☆

※ 表中の記号の表す内容（正答率に対して）

☆☆☆…大きく上回っている（+4.0～）

☆☆…上回っている（+2.0～+3.9）

☆…少し上回っている（+1.0～+1.9）

○…ほぼ同じ（±0.1～±0.9）

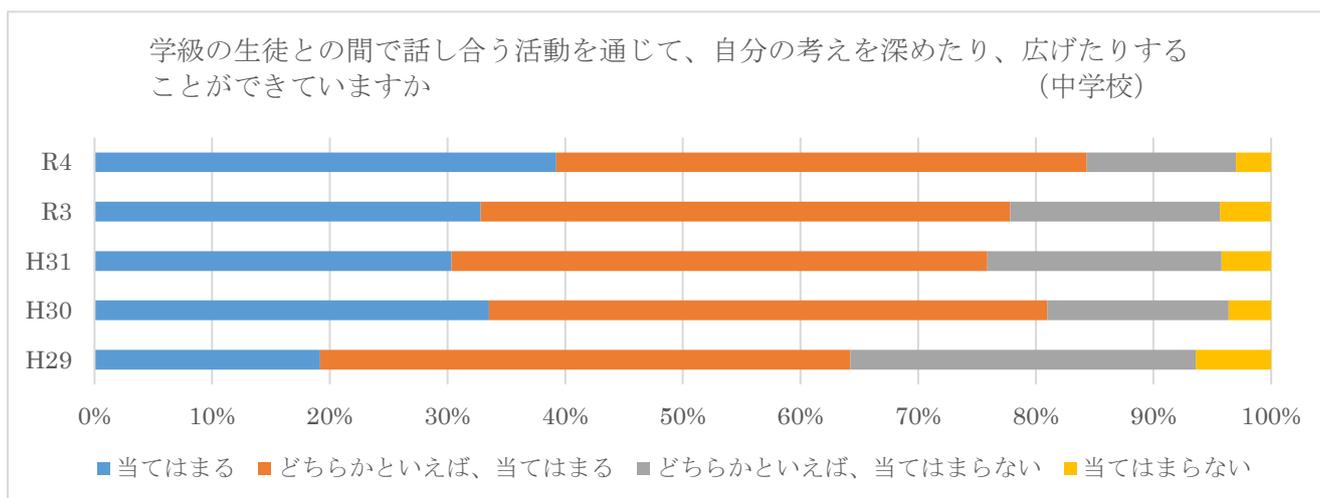
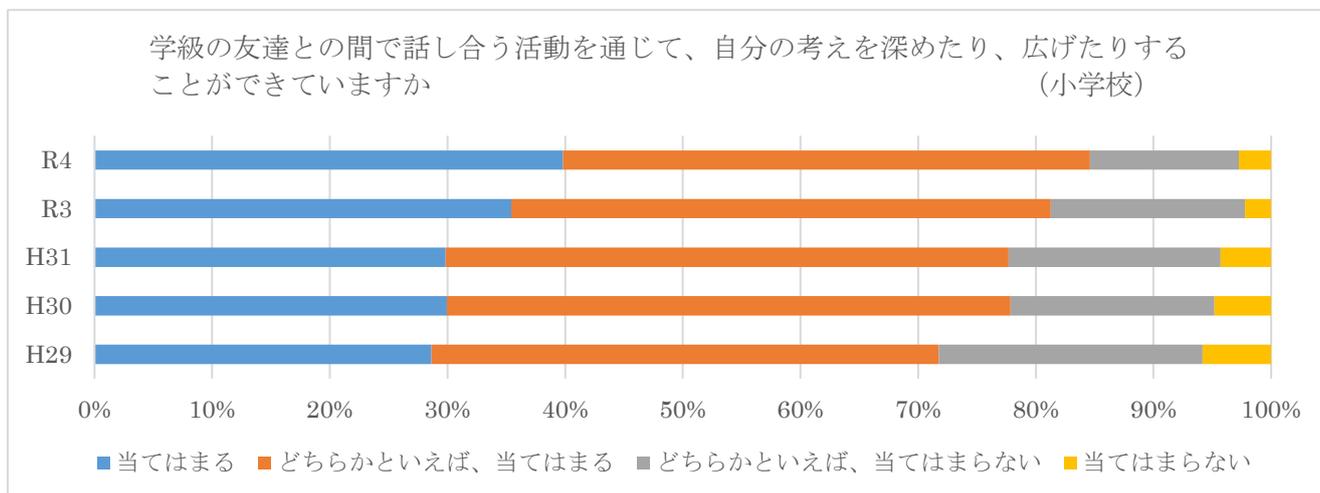
▽…少し下回っている（-1.0～-1.9）

▽▽…下回っている（-2.0～-3.9）

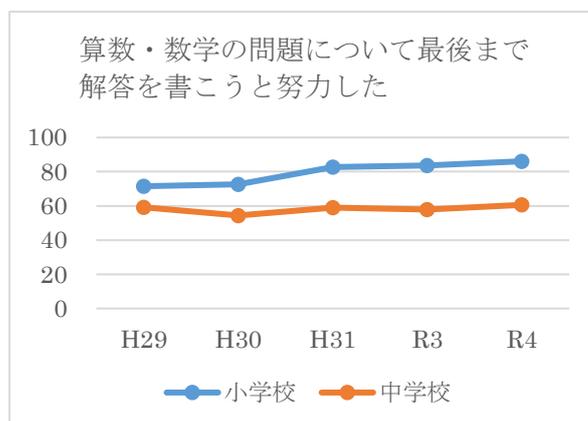
▽▽▽…大きく下回っている（-4.0～）

学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に関わる質問紙調査の問い「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするこ

とができていますか」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答を、小学校では昨年度を上回る 83.5%の児童がしており、中学校でも昨年度を大きく上回る 82.3%の生徒がしています。小学校・中学校ともに「学び合い」等を取り入れた授業改善が進んでいることがうかがえます。



学習意欲や粘り強さに関係するとして経年変化を注視している質問に対して「算数・数学のわけや求め方を言葉や式を使って書く問題について、全て最後まで解答を書こうと努力した」と答えた割合は、小学生が全国や県を上回る 86.1%で昨年度より向上しました。また、中学生はともに大きく上回る 60.6%で、やはり向上しました。また、国語についての同じような質問で「文章で解答を書く問題について、最後まで全ての問題で解答を書こうと努力した」と答えた割合は、小学



生が県を上回り全国を大きく上回る 83.9%、中学生はともに大きく上回る 83.3%で良好な結果でした。さらに、理科についての同じような質問に対する同様の答えをした割合も小学生、中学生ともに全国や県を大きく上回る 87.0%と 82.6%でした。

【小学校の傾向と課題】

国語では、「書くこと」は全国とほぼ同じで、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については全国を少し上回る結果となりました。その中でも、今年度が初出題で、思考力・判断力・表現力等で書くことの「共有」に関する指導事項である「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」力を問う設問【3二】は、全国を上回りました。県に対しても少し上回っており、書くことの力が高まってきていることが分かります。

反面、漢字の問題2問については全国を下回り、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」ことを問う設問【3四】は、全国を大きく下回る結果となりました。既習の漢字を生活の中で使う意識を高めることや、文字の大きさや配列に注意して文を書くことなどを、継続して指導していく必要があります。

算数では、平均正答率は全国を下回り、県を少し下回りました。正答数分布の傾向は全国や県とほぼ同様ですが、後傾している様子が見られ、全体的に力の底上げが必要です。

領域では、昨年度と直接比較のできる小問が今年度は出題されていませんでしたが、昨年度に改善の見られた「図形」の領域は、今年度は全国とほぼ同じで、県を少し上回っており、改善が進んでいると見ることができます。また、図形の構成に関する問題がプログラミング学習を絡めた形で今年度に初めて出題されましたが、全国や県を少し上回っている小問もあり、プログラミング学習への取り組みが進んでいることがうかがえます。

しかし、「変化と関係」は全国を大きく下回る結果であり改善する必要があります。さらに、「数と計算」についても県を少し下回っているので力を付ける必要があります。

理科では、全体の平均正答率は全国を少し上回り、県を上回りました。「粒子」を柱とする領域では、全国や県を大きく上回り、その他の領域では、全国や県とほぼ同じ結果となりました。

設問を見ていくと、実験器具の名称や使い方を問う設問では、全国を大きく上回っていることから、正しい実験操作が身に付けていると考えられます。一方で、観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈する設問【4(3)】では、全国を下回り、県を少し下回っていることから、観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもてるよう指導していくことが必要です。

【中学校の傾向と課題】

国語では、「話すこと」「読むこと」の領域において、全国や県を大きく上回る、または上回る結果となりました。「書くこと」の領域では、全国や県を少し上回る結果となりました。

【1】三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」ことを問う設問では、全国や県を大きく上回りました。他の領域の記述式の設問でも同様の傾向が見られることから、記述する条件を捉える力、条件に沿って適切に答える力が定着していることがうかがえます。一方で、【2】三「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことを問う設問の正答率の低さから、引用する部分を明らかにして書くことに課題があることが分かりました。自分の思いや考えだけでなく根拠を文章の中に記述する活動を充実させていく必要があります。

数学では、「数と式」「関数」で全国や県を大きく上回り、「図形」で全国とほぼ同じで県を上回り、「データの活用」で全国を少し上回り、県を上回る領域ごとの結果になりました。

【1】素因数分解をする問題、【2】連立方程式を解く問題の正答率の高さから、基礎的な技能が身に付いている生徒が多いことがわかります。【6】(2)、(3)が全国や県を大きく上回っていることから、新たな事柄を見いだし説明する力が付いてきていると考えられます。一方で、【7】(1)が全国を下回り、県を少し下回っていることから、多面的・多角的に考察し判断する力の育成が課題として残りました。

理科では、すべての領域で全国や県を上回る、または大きく上回る結果となりました。【5】(3)「考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善すること」を問う設問では、全国、県をともに大きく上回る結果となりました。また、記述式の設問では一般的に無解答率が高くなる傾向にありますが、同設問の無解答率は全国、県を大きく下回っていました。他の領域の記述式の設問でも同じ傾向があることから、生徒たちは粘り強く問題に取り組む力が付いてきていると考えられます。

更に力を付けるためには、【2】(3)「他者の考えについて多面的、総合的に検討して改善すること」を問う設問では全国や県とほぼ同じ結果となったことから、自他の考察の根拠について検討して改善ができるよう指導の工夫をしていくことが必要です。

児童生徒質問紙の回答から見た学習状況や生活の諸側面

●傾向と課題

小学校・中学校ともに、学習状況や生活の諸側面に関わる児童生徒質問紙の多くの項目の肯定的な回答は、全国や県の平均を上回っており、安曇野市の子どもたちの良さがうかがわれます。

今までの調査結果と同様に朝食を毎日食べていることや、起床・就寝時刻が一定していることから、ほとんどの児童生徒が規則正しい生活を送っていることが分かります。

また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定的な回答の多さから、安曇野市の児童生徒に粘り強く挑戦する心が育ってきていることが分かります。

学習面では、授業において工夫した発表をしたり、自分の考えをまとめる活動や新しいものを創り出す活動をしたりしている児童生徒が多いことなどが安曇野市の特徴となってい

ます。家庭学習では、自分で計画を立てて勉強する児童生徒が多いことも分かります。

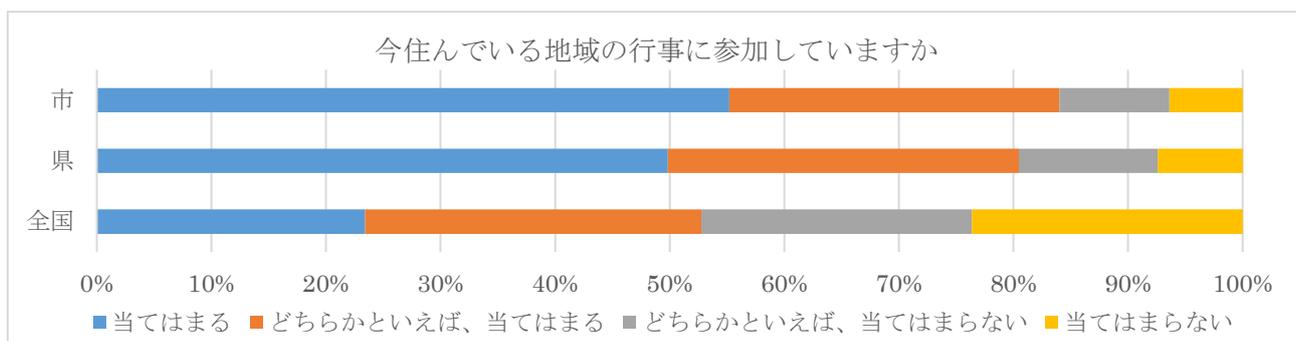
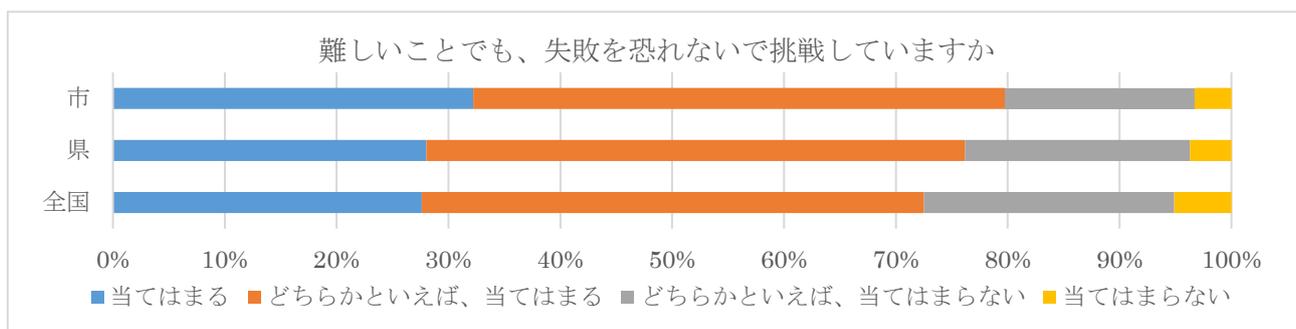
生活面では、地域行事に参加したり、地域のために何かできることがないかを考えたりしている児童生徒の割合が全国や県を大きく上回っています。学校生活では、学級での話し合い活動が充実しており自分の努力することを決めて取り組んでいる児童生徒が多いことが、安曇野市の特徴となっています。

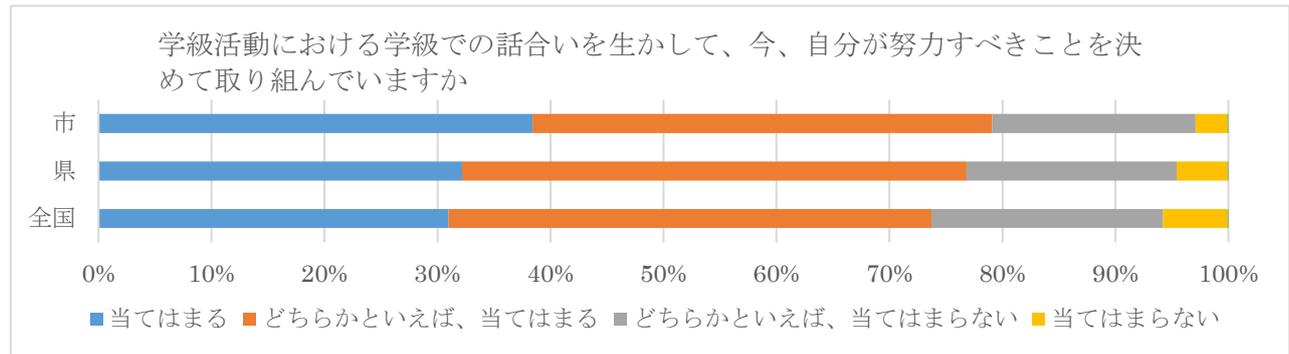
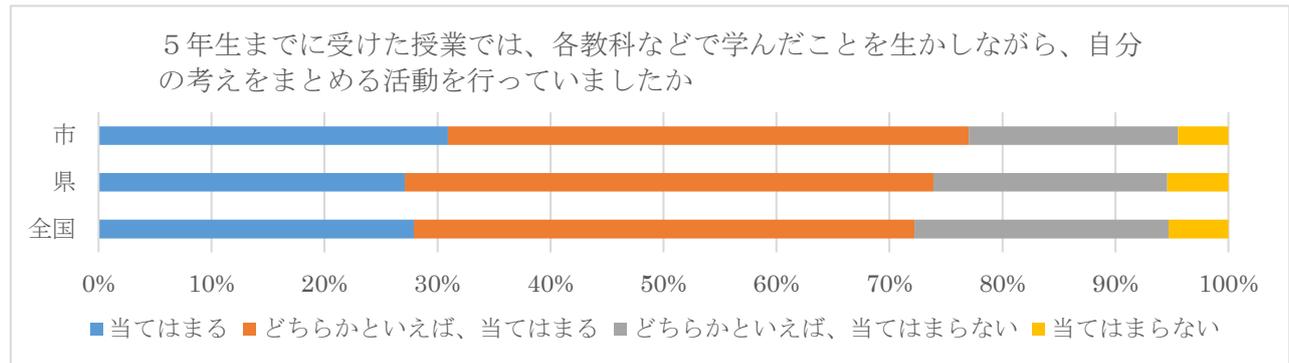
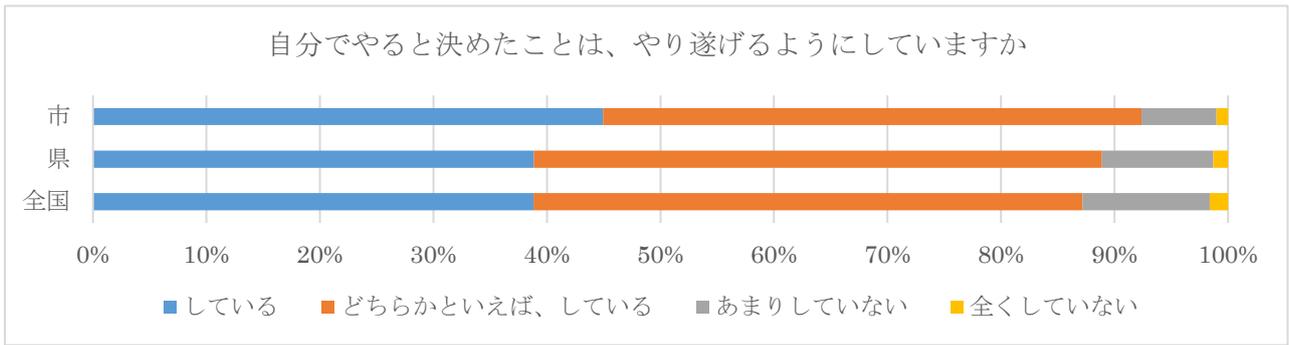
心配される面としては、家庭学習の時間が挙げられます。中学生は平日に限られますが、特に、小学生は平日、休日とも全国や県に比べて学習時間が多い児童の割合が少なく、経年推移からも見ても全体的に学習時間が少なくなっている傾向があります。家庭における学習時間の確保が課題となりつつあります。

昨年度、中学校では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、「持っているが、約束はない」と回答した生徒が約4人に1人となっていて県や全国の結果と比べても大きく上回っており危惧されましたが、本年度は5人に1人程度となり改善傾向にありました。これは県や全国とほぼ同じ数値でしたが、まだ高い数値であり、継続的に学校と家庭とが協力して指導していく必要があると考えられます。

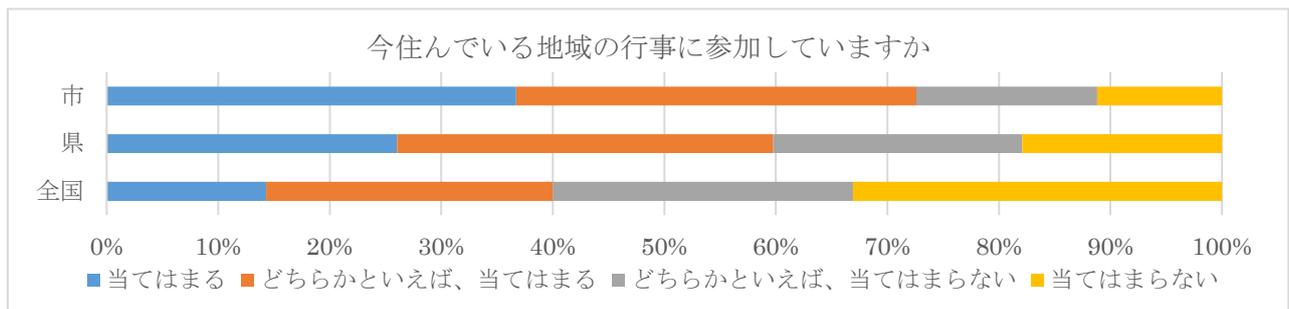
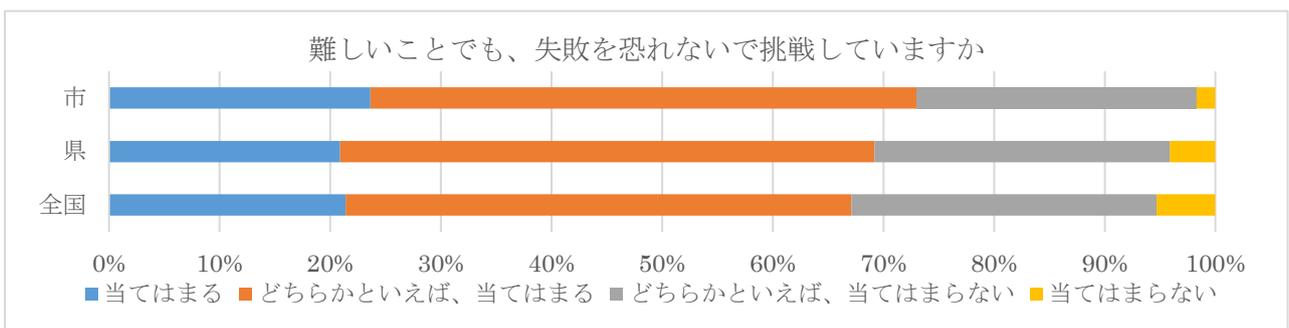
なお、今回の調査ではICT教育の推進に関わった質問が幾つかありました。それらの回答から、ICT機器利用の頻度や時間などの状況は学校や学級によってかなり異なっていることが分かりました。市全体の傾向としては、小学校はICT機器を利用した学習活動の頻度や時間が全国や県を大きく下回っており、改善が急務です。一方で、中学校は上回っている状況にあり、有効な利用が図られていると考えられます。

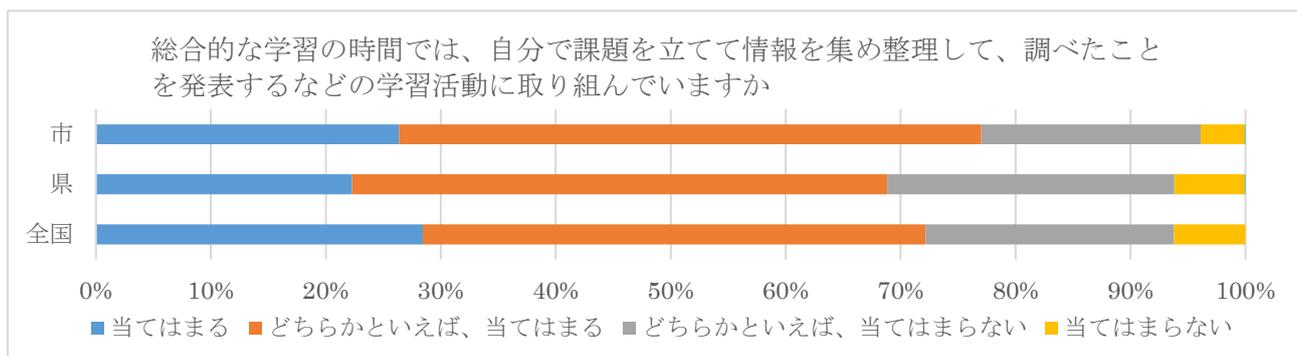
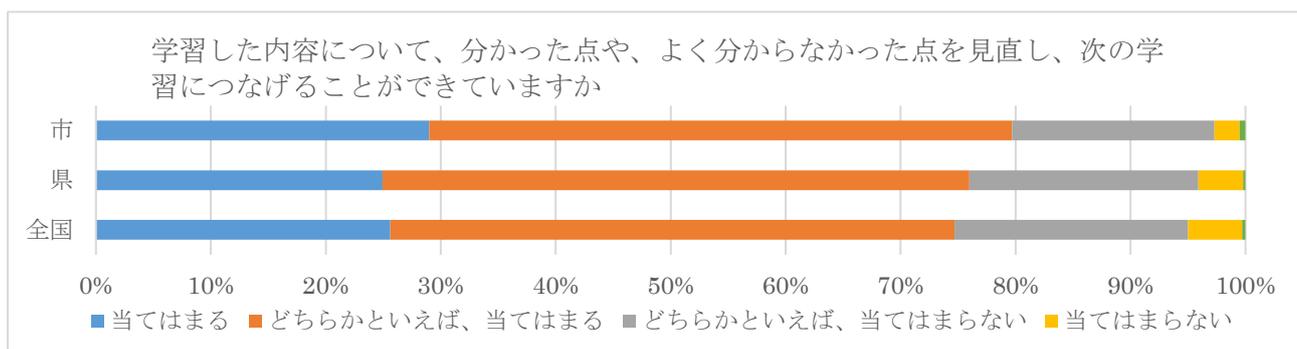
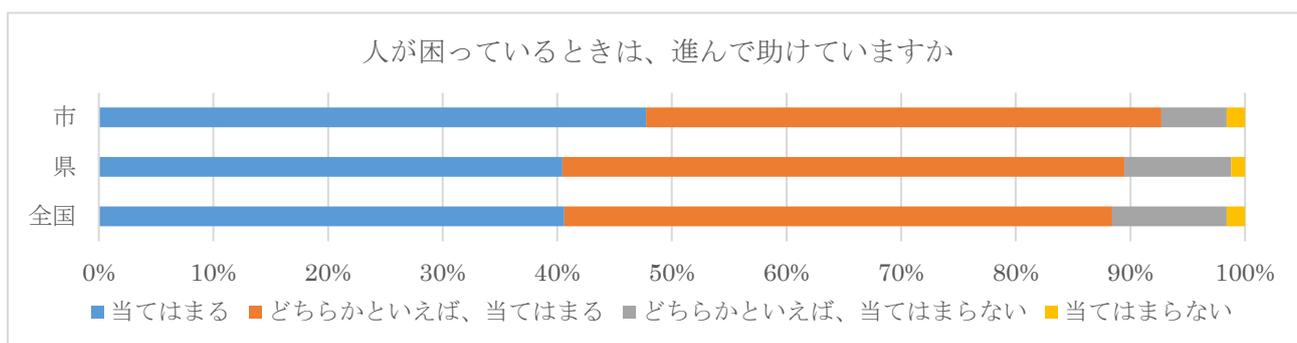
【良さが分かる小学校のグラフ】





【良さが分かる中学校のグラフ】





比較的正答率が高い傾向にある子どもの学習や生活の様子

学力調査結果と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目においてより肯定的な回答をした児童生徒の正答率が比較的高い傾向が見られました。

【小学校・中学校共通】

◇普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

※より少ない時間を回答している児童生徒の正答率が高い

◇普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

※1時間より少ない回答をしている児童生徒の正答率が高い

◇自分には、よいところがあると思いますか

◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

◇家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

◇前年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していらっしゃいましたか

◇学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

◇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

◇算数（数学）の勉強は好きですか

◇算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか

◇算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

◇算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

◇理科の勉強は大切だと思いますか

◇理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

◇今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか

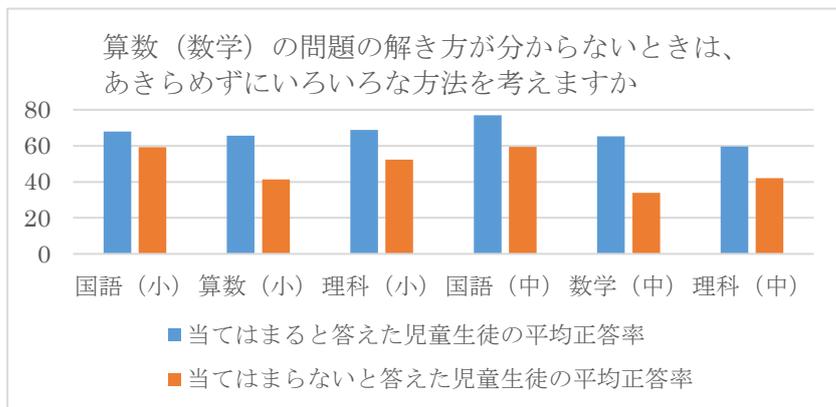
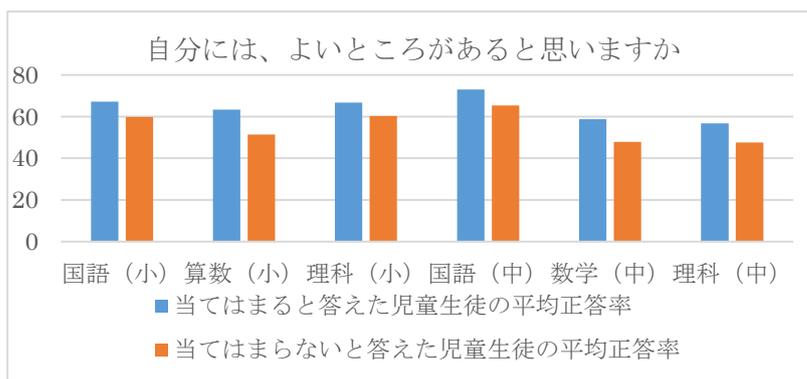
※「最後まで解答を書こうと努力した」と答えている児童生徒が、正答率が高い

◇今回の算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか

※「最後まで解答を書こうと努力した」と答えている児童生徒が、正答率が高い

◇今回の理科の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか

※「最後まで解答を書こうと努力した」と答えている児童生徒が、正答率が高い



【小学校】

- ◇新聞を読んでいますか
- ◇5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ◇5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- ◇5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ◇学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
- ◇あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- ◇国語の勉強は大切だと思いますか
- ◇国語の授業の内容はよく分かりますか
- ◇国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ◇算数の勉強は大切だと思いますか
- ◇算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか
- ◇算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか
- ◇理科の授業の内容はよく分かりますか
- ◇理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

【中学校】

- ◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
※より多い時間を回答している生徒の正答率が高い。
- ◇1、2年生のときに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか
※より多い頻度を回答している生徒の正答率が高い
- ◇1、2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか

調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は、

- (1) 全国学力・学習状況調査の分析から見えてくる児童生徒や学校の良さや課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
 - ①国や県の動向を注視し、今日求められる学力とそれに対する学び方や指導・支援のあり方についての方向性を示します。(学力向上推進委員会など)
 - ②学校の願いに応じながら、教育指導室の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- (2) 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
 - ①各校で開催される授業研究会や研修会に他校からも参加できるようにし、月ごとの公開授業・研修会を、各校の協力を得て市内小中学校に発信していきます。
- (3) PC・タブレットなどのICT機器を活用した授業や家庭学習での効果的な利用方法等について、教職員の研修を推進したり各校の取組を支援するとともに優れた実践を紹介したりしていきます。

各校は、

- (1) 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点に配慮します。
 - ①明らかに落ちているまたは伸びている領域の問題を分析する。
 - ②回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の課題等を分析する。
 - ③当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、hyper-QUやCRTなどの検査等と関連付けて分析し、全校の授業改善に活かせるようにする。
 - ④分析結果から、必要な補充・補完を計画し実施する。
- (2) 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」から見えてくる良さや課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。
- (3) 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- (4) 学校での学習や生活の基本的な習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や各家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また、様々な機会を通して各家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- (5) 教育委員会と連携しながら、PC・タブレットなどのICT機器を活用した授業や家庭学習での効果的な利用に努めます。その際は、メディアリテラシーにも十分配慮しながら進めます。